

2014. 7 VOL76 おいしいおとうふを求めて
社長のひとり言 株式会社手造り屋 社長の岩崎勉です。

おとうふ日和

おとうふは、どんな薬よりも勝るもの。そのままよし、煮てもよし、焼いてもよし。
本物の食はすぐそこにありました。



遺伝子組み換え食品についてこの時期、詳しく考えてみる必要があるのではないかと思います。今月のテーマにしたいと思います。あと5年もすると当り前になるか？ が怖い。

1、遺伝子組み換えについて

●「遺伝子組み換え（GM）食品」とは

ある生物の役に立つ遺伝子を取り出し、別の生物の遺伝子に導入して、新しい生物を作り出す技術。それを使って作られたのが「遺伝子組み換え作物」で、従来の品種改良とは異なる。

GM作物やそれを加工した食品が「遺伝子組み換え食品」。

現在（2013年末）、日本に輸入しているGM作物は、大豆、トウモロコシ、ナタネ、綿実、ジャガイモ、パパイア、アルファルファ、テンサイ。

● どのGM作物が栽培されているか？

現在栽培されているのは、「除草剤耐性作物」と「殺虫性作物」の2種

「除草剤耐性作物」除草剤に対して強くなった微生物の遺伝子を作物に導入し、特定の除草剤をかけても枯れないようにした作物。しかし、すべての雑草を枯らすはずの除草剤にも枯れない、「スーパー雑草」が現れベトナム戦争で枯葉剤として使用されたさらに強い農薬が使われている。

「殺虫性作物」Bt菌などの遺伝子を導入し、作物の全ての細胞に殺虫毒素が出来るようにした作物。しかし、殺虫毒素に負けない害虫が増え、より強い農薬が大量に使われている。

（ここまでは婦人之友2月号参考にさせていただきました）

「干ばつ、乾燥に強いGM作物」も研究されているとの話も聞いております。

2、遺伝子組み換え食品と問題点

気を付けていても、毎日口にするGM食品

有機IASの背景に、遺伝子組み換え技術を使わない、化学肥料、農薬を一切使わないことですが、しかしGM作物を食べて育った家畜の糞を堆肥として育った野菜は有機野菜として流通しています。それまで除外すると食べるものがなくなってしまいます。

●しかしなかでは糞を使わないで堆肥を造っている人がいます。

●TPPのこと、もっと気にしても良いのではないか

●GM組み換え食品は 意外とこんな食品にも「パン、カップ麺、食用油、マーガリン、チョコレート、牛乳、など使われている

●可能性の多い加工品 甘味料、着色料、乳化剤、カラメル色素、そのほかの添加物

私が食品を見分けるものは

「価格でおおよその判断」「売り場、専門店などで判断」「裏の表示で判断」

私は専門家でないので詳しく解りませんが、自分の店ではGM栽培でない物、添加物は基本的に使わないものを販売しています。GM食品を食べると本来の食品としての機能をはたさないことで免疫力がさがることを知りました。